

「トマト黄化葉巻病」の防除対策

平成23年11月
山梨県農政部

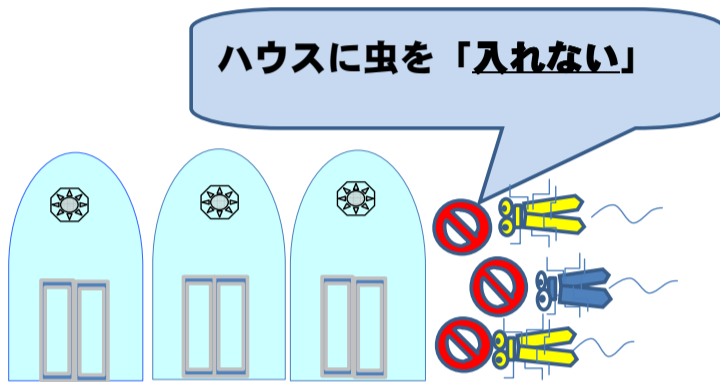
トマト黄化葉巻病は、平成18年1月に初めて県内で確認されたウイルスによる病気です。今年、抑制裁培のトマト及びミニトマトにおいて、広範囲に本病が発生しているため、以下により総合防除対策を徹底してください。

【防除のポイント】

- ・ トマト黄化葉巻ウイルスの伝染は、タバココナジラミを通じたトマトからトマトへの経路が中心となるため、前作と後作の十分な間隔の確保や、本圃と育苗圃を離す等により、タバココナジラミの循環を断ち切りましょう。
- ・ 発病株は見つけ次第抜き取り、透明ビニール袋に入れ、日光に当て高温にし、コナジラミ類を死滅させてから、施設外に持ち出し土中に埋めます。
- ・ 芽かきした茎葉や野生化しているトマトも、コナジラミ類およびトマト黄化葉巻ウイルスの増殖源となる可能性があるため、発病株と同様に適切に処理します。
- ・ 家庭菜園や露地栽培の発病トマトも本病ウイルスの感染源やコナジラミ類の増殖源になるので注意します。

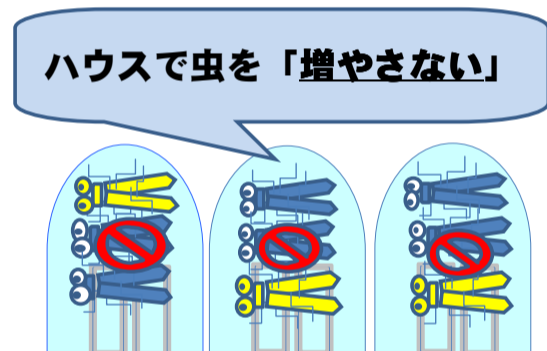


防除ポイント その1



- ・ 施設開口部(天窗、側窓、換気扇口等)は、すべて**0.4mm目以下**の防虫ネットで被覆。出入り口は、二重にするなどして侵入防止。
- ・ 黄色粘着テープを施設外部等に設置して侵入防止。
- ・ 育苗期の防除を徹底。
- ・ 施設内外の雑草は、増殖源となるので除草を徹底。

防除ポイント その2



- ・ 黄色粘着板で、コナジラミ類の発生状況を確認。
- ・ 定植時の粒剤施用や薬剤散布を徹底。
- ・ 生育期は定期的な薬剤散布を徹底。
- ・ 葉裏に多く寄生しているため、ていねいに薬剤散布。
- ・ 施設内外の雑草は、増殖源となるので除草を徹底。

防除ポイント その3



- ・ 施設開口部(天窗、側窓、換気扇口等)は、すべて**0.4mm目以下**の防虫ネットで被覆し、コナジラミ類を出さない。
- ・ 栽培終了後、施設を10日以上密閉するなどしてコナジラミ類を死滅させてから片付け、

【トマト黄化葉巻病とは…】

症状は、はじめ先端部の葉のふちから徐々に黄色くなり、やがて葉脈付近を残し全体が黄化し、葉巻症状となります。わき芽も同様の症状になります。ひどくなると成長点が止まるため、果実の収量が激減します。

タバココナジラミが、トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)を伝搬し、発病します。ハサミなどによる接触伝染や土壌伝染はしません。



具体的な防除対策は裏面へ

ウイルスのハウスへの侵入は、保毒コナジラミか感染苗によります

防除ポイントは、虫を…

ハウスに「**入れない**」ハウスで「**増やさない**」ハウスから「**出さない**」

時 期	防 除 対 策																																																													
定植前	<ul style="list-style-type: none"> ○コナジラミ類の侵入を防ぐため、施設開口部(天窗、側窓、換気扇口等)はすべて0.4mm目以下の防虫ネットで被覆する。特に、出入り口のカーテン等は二重にして、侵入を防止する。 ○施設内外の雑草は、コナジラミ類の増殖源となるため、除草を徹底する。また、トマト以外の植物を施設内に持ち込まない。 ○野生化しているトマトは、トマト黄化葉巻ウイルス及びコナジラミ類の増殖源となるため適切に除去する。 ○黄色粘着テープを施設外に設置し、コナジラミ類成虫の侵入を防止する。 ○黄色粘着板を施設内に設置し、コナジラミ類の発生状況を確認することで、適期防除に努める。 																																																													
定植時	<ul style="list-style-type: none"> ○ベストガード粒剤(1株あたり1g)を植穴に土壌混和する。 * ベストガード粒剤は、育苗培土混和、育苗期の株元処理、定植時の土壌混和のいずれか1回しか使えません。 																																																													
生育期	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内に黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の発生状況を確認することで、適期防除に努める。 ○施設内外の雑草は、コナジラミ類の増殖源となるため、除草を徹底する。また、トマト以外の植物を施設内に持ち込まない。 ○薬剤効果の低下が見られるタバココナジラミ(バイオタイプQ)が広く存在するため、下表を参照し有効薬剤を散布する。 <p>「タバココナジラミ(バイオタイプQ)の主な生育期防除薬剤(トマト)」 (平成23年11月1日現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系統</th> <th>薬剤</th> <th>希釈倍数</th> <th>10a当り 散布液量</th> <th>収穫前日数</th> <th>総使用回数</th> <th>薬剤の特性と注意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A</td> <td>ベストガード水溶剤</td> <td>2000倍</td> <td>100~300ℓ</td> <td>前日まで</td> <td>3回以内</td> <td rowspan="3">成虫、幼虫、卵すべてのステージに効果あり * アルバリン顆粒水溶剤とスタークル顆粒水溶剤は同成分のため総使用回数は合計2回以内</td> </tr> <tr> <td>アルバリン顆粒水溶剤</td> <td rowspan="2">3000倍</td> <td rowspan="2">100~300ℓ</td> <td rowspan="2">前日まで</td> <td rowspan="2">2回以内</td> </tr> <tr> <td>スタークル顆粒水溶剤</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">B</td> <td>サンマイトフロアブル</td> <td>1500倍</td> <td>100~300ℓ</td> <td>前日まで</td> <td>2回以内</td> <td>成虫、幼虫、卵すべてのステージに効果あり、高温時の薬害注意</td> </tr> <tr> <td>ハチハチ乳剤</td> <td>2000倍</td> <td>100~300ℓ</td> <td>前日まで</td> <td>2回以内</td> <td>幼虫、卵のみに効果あり</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>コロマイト乳剤</td> <td>1500倍</td> <td>100~300ℓ</td> <td>前日まで</td> <td>2回以内</td> <td>幼虫、卵のみに効果あり</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>コルト顆粒水和剤</td> <td>4000倍</td> <td>100~300ℓ</td> <td>前日まで</td> <td>3回以内</td> <td>成虫、幼虫のみに効果あり</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>粘着くん液剤</td> <td>100倍</td> <td>150~300ℓ</td> <td>前日まで</td> <td>—</td> <td>気門封鎖による窒息死作用なので、散布ムラがないように</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>オレート液剤</td> <td>100倍</td> <td>—</td> <td>発生初期~収穫前日</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> * 同一系統薬剤の連用は、薬剤効果の低下につながるため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を実施する。 ** マルハナバチに影響があるため、農薬の使用にあたっては注意する。 <ul style="list-style-type: none"> ○発病株は見つけ次第抜き取り、透明のビニール袋に入れ、日光に当てて高温にしてコナジラミ類を死滅させてから、施設外に持ち出し土中に埋める。 ○芽かきした茎葉や野生化しているトマトは、コナジラミ類の増殖源となるため発病株と同様に適切に処理する。 ○家庭菜園や露地栽培の発病トマトも増殖源となるため注意する。 	系統	薬剤	希釈倍数	10a当り 散布液量	収穫前日数	総使用回数	薬剤の特性と注意点	A	ベストガード水溶剤	2000倍	100~300ℓ	前日まで	3回以内	成虫、幼虫、卵すべてのステージに効果あり * アルバリン顆粒水溶剤とスタークル顆粒水溶剤は同成分のため総使用回数は合計2回以内	アルバリン顆粒水溶剤	3000倍	100~300ℓ	前日まで	2回以内	スタークル顆粒水溶剤	B	サンマイトフロアブル	1500倍	100~300ℓ	前日まで	2回以内	成虫、幼虫、卵すべてのステージに効果あり、高温時の薬害注意	ハチハチ乳剤	2000倍	100~300ℓ	前日まで	2回以内	幼虫、卵のみに効果あり	C	コロマイト乳剤	1500倍	100~300ℓ	前日まで	2回以内	幼虫、卵のみに効果あり	D	コルト顆粒水和剤	4000倍	100~300ℓ	前日まで	3回以内	成虫、幼虫のみに効果あり	E	粘着くん液剤	100倍	150~300ℓ	前日まで	—	気門封鎖による窒息死作用なので、散布ムラがないように	F	オレート液剤	100倍	—	発生初期~収穫前日	—	
系統	薬剤	希釈倍数	10a当り 散布液量	収穫前日数	総使用回数	薬剤の特性と注意点																																																								
A	ベストガード水溶剤	2000倍	100~300ℓ	前日まで	3回以内	成虫、幼虫、卵すべてのステージに効果あり * アルバリン顆粒水溶剤とスタークル顆粒水溶剤は同成分のため総使用回数は合計2回以内																																																								
	アルバリン顆粒水溶剤	3000倍	100~300ℓ	前日まで	2回以内																																																									
	スタークル顆粒水溶剤																																																													
B	サンマイトフロアブル	1500倍	100~300ℓ	前日まで	2回以内	成虫、幼虫、卵すべてのステージに効果あり、高温時の薬害注意																																																								
	ハチハチ乳剤	2000倍	100~300ℓ	前日まで	2回以内	幼虫、卵のみに効果あり																																																								
C	コロマイト乳剤	1500倍	100~300ℓ	前日まで	2回以内	幼虫、卵のみに効果あり																																																								
D	コルト顆粒水和剤	4000倍	100~300ℓ	前日まで	3回以内	成虫、幼虫のみに効果あり																																																								
E	粘着くん液剤	100倍	150~300ℓ	前日まで	—	気門封鎖による窒息死作用なので、散布ムラがないように																																																								
F	オレート液剤	100倍	—	発生初期~収穫前日	—																																																									
栽培終了後	<ul style="list-style-type: none"> ○全株を地際から切断または抜根するとともに、施設内外の除草を徹底し、施設を10日間以上密閉するなどして、コナジラミ類を死滅させる。 																																																													

発病が疑われる場合は、山梨県総合技術普及センター等にお問い合わせ下さい。

山梨県総合技術普及センター 野菜専門科 TEL 0551-28-2933
 山梨県中北地域普及センター TEL 0551-23-3291 山梨県峡東地域普及センター TEL 0553-20-2830
 山梨県峡南地域普及センター TEL 055-240-4131 山梨県富士・東部地域普及センター TEL 0554-45-7832
 山梨県総合農業技術センター 調査部(山梨県病害虫防除所) TEL 0551-28-2941